



第5回日本フットケア・足病医学会
関西地方会 学術集会が

2024年2月10日(土)に

奈良県社会福祉総合センターにて
開催予定です。

当院からは 診療支援部 野口 幸 部長が

学術発表をされますので、ご紹介します。

Japanese Society for Foot Care and Podiatric Medicine

第5回 日本フットケア・足病医学会 関西地方会 学術集会

会期 2024年2月10日(土)

会場 奈良県社会福祉総合センター (奈良県橿原市)

会長 谷口 晃 (奈良県立医科大学 整形外科)

副会長 西林 直子 (奈良県立医科大学附属病院 看護部)

一般演題 登録期間

2023年9月1日(金)～

~~10月31日(火)~~

11月10日(金)

奈良・橿原 Nara, Kashihara

早朝の吉野山

CLTI を発症した Desert foot の透析患者に長期間レオカーナを導入することで創傷治癒に至ることができた 1 例

医療法人 康仁会 西の京病院 診療支援部 臨床工学科¹⁾ 循環器内科²⁾ 透析センター³⁾
野口 幸¹⁾ 市谷和也¹⁾ 川西 大¹⁾ 辻本大輔²⁾ 福井寛人²⁾ 名方 剛²⁾ 齊藤精久²⁾
山岡みゆき³⁾ 樋口侑子³⁾ 樋口 敦³⁾ 吉岡伸夫³⁾

【症例】

50 歳代男性。維持透析患者で、20XX 年に左第 1 趾と 4、5 趾に黒色痂皮を伴う潰瘍が出現した。SPP は Plantar 20mmHg (Dorsal は測定不能)、Wifi 分類は Stage4 であった。血行再建術のため Y 月に EVT を施行した。下肢動脈造影では ATA が 99% 狭窄、PTA は閉塞、BTA の血流は乏しかった。EVT は ATA に施行した。治療後の造影では、BTA の血流は治療前と明らかな改善を認めなかったためレオカーナを導入した。SPP は正常値まで改善したが、CRP15.9mg/dL と感染の増悪を認めたので、左足趾切断術を施行した。レオカーナは翌日から再開し、3 か月間、計 20 回行った。レオカーナ終了後、創部は足底部に黒色の痂皮形成を認め、断端部に一部壊死組織が出現したのでデブリドマンを行い、人工皮膚で被覆した。しかしながら、肉芽形成の遅延と縫合不全を認めたため、レオカーナを再導入した。導入後は、肉芽形成も良好となり、約 1 か月後に創傷治癒に至った。また、血流評価と追加治療の必要性を判断するために下肢動脈造影を行った結果、良好な Wond Blush を認めた。現在、経過良好で独歩可能である。

【結語】

レオカーナは EVT 後の補完療法として有効性が報告されているが、EVT が困難である Desert foot の症例においても、レオカーナを長期間継続することで創傷治癒に至ることができると示唆された。